



クレヨンハウス大阪店で開催しました

地球温暖化問題を考える。

パリ協定って何？

～ちきゅうCafé & 絵本～

4月26日、ちきゅうCaféを開催しました。いつもCASA事務所で開催しているちきゅうCaféですが、この日はクレヨンハウス大阪店のテラス席をお借りしての、いわば「出張ちきゅうCafé」となりました。会場のクレヨンハウス大阪店は、子どもの本・おもちゃの専門店として知られ、大阪府吹田市にあります。2階は絵本・子どもの本・おもちゃのフロアで、座り読みができるテーブルもあり、ゆっくり本を選べます。さすが専門店、大阪店では常時2万冊の本を揃えているとか。1階はオーガニック・フードマーケットとなっていて、店内で買ったお惣菜やお弁当を飲食できるテラス席が併設されています。今回は、このテラス席の一部をお借りして、ちきゅうCafé & 絵本を開催しました。

皆さんからの声が企画になりました



この企画の始まりは、「フェイスブックでCASAのちきゅうCaféのことを見て、参加してみたいと思うけど、開催時間が遅めなの

で参加できない」という声が寄せられたことでした。環境NGOであるCASA、企業であるクレヨンハウス大阪店およびオーガニックデリ「Open Sesame」がその声に応えようと協力し、実現に至りました。

こうした要望をまとめて企画原案を準備してくださったのは、古家明子さんと坪山規代さん。古家さんは、CASAボランティアで平素からちきゅうCaféの運営などに関わってくださっています。坪山さんは、長らく食の安全を大切に考え、オーガニックデリ「Open Sesame」を運営され、自らオーナーシェフを務めておられたご経験があります。このお2人が、思いの詰まった企画提案書を持ってCASAへ来られたのが昨年12月19日のことで、CASAは協力を申し出るとともに、今年2月から、企画原案をベースに役割分担などを相談し、プログラム内容をまとめていく作業がスタートしました。

クレヨンハウス大阪店長・山本能里子さんには、絵本の専門家という立場から環境分野のおすすめ絵本を紹介いただけることになり、「ちきゅうCafé & 絵本」という企画が誕生しました。

地球温暖化のこと、パリ協定のこと、自分にできることを考える時間に

クレヨンハウス大阪店は、市営地下鉄御堂筋線「江坂」駅から緑あふれる江坂公園を通り抜けてすぐの便利な場所にあります。お天気はあいにくの雨模様でしたが、雨にしっかりと濡れた緑の葉は、いっそう色濃く美しく見えました。

参加者の皆さんが飲み物をオーダーしてテラス席へ着かれるのを待って、坪山さんによる絵本「ちきゅうはみんなのいえ」の読み聞かせが始まりました。じつと耳を傾けて聞いていると、絵本の世界に引き込まれていきます。

続いてCASAスタッフの土田から、「地球温暖化問題を考える。パリ協定って何？」の報告です。CASAの活動について紹介したあと、温暖化問題やパリ協定、日本の課題について報告しました。①温暖化が進行している理由は人間の経済活動から排出される二酸化炭素が原因であること、②世界ではすでにさまざまな影響が観測されていること、③日本でも観測されている例として、サンゴの白化現象について環境省が緊急宣言を出し、そのなかで2070年代に日本近海からサンゴ礁が消滅する可能性が指摘されていることなどを紹介。また、最新の科学は、2013～2014年にかけて公表されたIPCC第5次評価報告書で、このままでは工業化前に比べて平均気温が4℃上昇する道筋をたどることになると警告を発していること、平均



写真上：会場全体の様子、下段左側：坪山さん、下段右側；クレヨンハウス大阪店長・山本さん

気温の上昇が2℃を超えるとさまざまなリスクが高まるが、いまの排出ペースでは、あと30年足らずで2℃を超えてしまうことを紹介。こうした背景を踏まえ、2015年12月に合意し1年足らずという短期間で発効したパリ協定をどう見るかについて考えました。日本は世界で5番目の主要排出国にもかかわらず、パリ協定の批准が遅れたこと、国連に提出している2030年目標の水準が低いこと、加えて国内で石炭火力発電所の計画¹が44基あるがこれは明らかにパリ協定に逆行していること、日本は国連から提出を要請されている低炭素発展戦略を策定するプロセスにあるが、どのように決まっていくのかが不透明であることなど、日本の課題についても報告しました。

最後にクレヨンハウス大阪店長・山本さんから絵本

の紹介です。どの本も、絵の美しさ、ストーリーのユニークさから、自然の美しさや私たちの暮らしの在り方、環境について考えるきっかけを提供してくれる本でした。絵本は、子どもはもちろん、昔子どもだった私たち大人にも大事なことを考える大事な時間をやさしく提供してくれるとあらためて思います。

プログラム終了後は、多くの方がクレヨンハウス2階へ立ち寄られ、本を選んでおられる姿が印象的でした。参加者の皆さんからは、「普段まったく気にしていないので、すごく勉強になりました。わかりやすかったです。」という感想をいただきました。CASAでは今後も引き続き、ご要望があれば「出張ちきゅうCafé」を展開していきたいと考えています。

土田 道代 (CASAスタッフ)

¹ 気候ネットワーク石炭発電所新設ウォッチ、<http://sekitan.jp/plant-map/>